

のうだ とくわかまんざい

能田徳若万歳

昭和47.11.3 市指定

出演団体 能田徳若万歳保存会

所在地 北名古屋市能田

鎌倉時代に長母寺の名僧、道暁(無住国師)に、あじま村の安部朝臣有佐の次男である徳若らが陰陽の道を学ぶかたわら万歳歌を教わったのが、徳若万歳の起源とされています。徳若はその後京都文化を身につけた後再び当地に戻り、多くの弟子を持ったと伝えられ、以来代々傳承されてきました。明治の初め頃、甚目寺町の桂五郎から現名古屋市能田の長瀬幸右衛門など数十人が徳若万歳を習い、これが今日の能田徳若万歳の始まりであるとされています。

演目には「陰陽五穀の舞」「さっかい踊り」「七福神ばやし」「お茶ばやし」などがあり、演者の数も2人、5人、7人などさまざまです。また、万歳の口上は能田徳若万歳の大きな特色のひとつです。



せらくしゃまつりばやし せぎちく ばやし
世楽車祭囃子及び瀬木地区いさみ囃子

昭和47.3.10 市指定

出演団体 瀬木祭り保存会

所在地 常滑市瀬木地区



私たち瀬木祭り保存会では、毎年4月に行われる常滑地区の祭礼、そして毎年7月に行われる瀬木区の祭礼である天王祭りで行う祭囃子(「世楽車祭囃子」八曲、「瀬木地区いさみ囃子」十七曲)を保存傳承し、祭礼で演奏しております。

「世楽車祭囃子」は、能楽を基調とした囃子で能管、大太鼓、小太鼓、太鼓による合奏で、祭礼に曳き回される山車の中で演奏する囃子です。

「瀬木地区いさみ囃子」は、里神楽を基調とした囃子で草笛(篠笛)、大太鼓、小太鼓による合奏で、山車を伴わない祭礼の囃子として、行列を仕立てて歩きながら演奏する囃子です。

2005年、愛知万博の「山車百両揃え」のオープニングセレモニーで演奏し、好評を博しました。

ぼうて 棒の手

昭和32.10.4 県指定

出演団体 豊田市棒の手保存会

所在地 豊田市四郷町

棒の手は、三河国と尾張国の境となる猿投山の南麓にある猿投神社をはじめ、熱田神宮(名古屋市熱田区)竜泉寺(名古屋市守山区)などの節句祭に奉納される献馬(馬の塔・おまんとう)儀式的農民武芸演技です。

はじめは、農民たちが願いを込めた献馬を農耕の道具である「棒」を持って警固し、神前において古伝農民武芸の棒術を奉納したようです。戦国時代には警固にも世相が反映して槍、鎌、薙刀、太刀および鉄砲などの武具が加わり、次第に現在のような形態になったと思われます。

豊田市内には保存会が23あり、見当流、鎌田流、起倒流、藤牧検藤流の4流派が現在でも保存、継承されています。



むっしししまい
六ツ師獅子舞

平成9.4.15 市指定

出演団体 六ツ師獅子舞保存会
所在地 北名古屋市六ツ師

六ツ師獅子舞は、番神様例祭の時、獅子頭をかぶった女形（嫁獅子）が神前で「袂え」の舞として行ったもので、嘉永5（1852）年頃に始まったと伝えられています。戦後途絶えていましたが、住民の熱意によって平成2年に復活し、毎年10月第2月曜日の牟都志神社の祭礼に舞を奉納したり、各地の老人ホームで披露したりしています。

本日は、よせ太鼓の後、「さがりは」「おぬさ」「幣の舞」「傘の舞」の四演目を続けて舞います。

舞い手は黒の衣装に獅子頭をかぶり、初めは静かな舞ですが、動きのある舞へと続きます。手に持った幣や鈴を回すところや、傘を使って舞うところが見せ場です。



くさかべたいこ
日下部太鼓

昭和52.11.1 市指定

出演団体 日下部太鼓保存会
所在地 稲沢市日下部中町



日下部太鼓は神社への奉納太鼓で、江戸後期から続いており、毎月決まった参拝の時に演奏されます。順番制の宿があり、その宿から神社まで歩いて道行太鼓を演奏し、人々に参拝を促します。神社に着くと宿元がお酒、燈明を供え、巫女太鼓を演奏奉納して人々の参拝を待ちます。参拝が終了すると再び道行太鼓で宿元へ帰ります。

道行太鼓は大太鼓と小太鼓の打ち手が別々で、笛の旋律に合わせて小太鼓がテンポを作り、ポイントに大太鼓が入ります。

巫女太鼓は一人で小太鼓と大太鼓を打ち分け、笛のピィに太鼓のドンを重ねるいわゆる合せ太鼓で、笛と太鼓が軽妙に息を合わせて演奏します。今日は道行太鼓を連続で5曲と巫女太鼓を5曲行います。

愛知県民俗芸能大会について

- この大会は、国、県及び市町村指定の無形民俗文化財等を順次公開し、その保存・伝承を図るとともに、民俗芸能への理解と認識を深めることを目的としています。
- 昭和48年度から開催され、前回までに50会場で実施し、延べ268団体が出演しました。
- 今回は、平成21年2月22日（日）午後1時より新城文化会館にて開催します。上演演目については、下記の予定となっています。

おおみ 大海のほうか（新城市）	しんしろ かぶき 新城歌舞伎（新城市）
はなまつり 花祭（東栄町）	みかわまんざい にしお ごてんまんざい 三河万歳（西尾の御殿万歳）（西尾市）
おおじし こじし まい 大獅子・小獅子の舞（半田市）	

伝えていこう、みんなの民俗芸能

古代より、それぞれの地域の仕事や信仰・年中行事の中で生まれ育ってきた芸能、それが「民俗芸能」です。

この民俗芸能では、先人の願望・喜び・恐れなどが様々な所作によって表現されており、観る者は胸を打たれます。

私たちは、これらの民俗芸能を大切な遺産として次代へ伝えていくために、その保存・伝承に努めていきたいものです



文化財愛護
シンボルマーク

このマークは、手のひらを広げた形により日本建築の斗拱(ときょう)のイメージを表し、三つ重ねることにより、文化財を過去・現在・未来にわたり伝承するという愛護精神を象徴しています。

県内の主な民俗芸能一覧(平成20年9月現在・指定順)

国指定重要無形民俗文化財

No.	名 称	所 在 地	No.	名 称	所 在 地
1	花 祭	北設楽郡東栄町 設楽町・豊根村	6	三 河 万 歳	安城市・西尾市 額田郡幸田町
2	三 河 の 田 楽	新城市鳳来寺・黒沢 北設楽郡設楽町	7	尾 張 万 歳	知多市八幡
3	豊橋神明社の鬼祭	豊橋市八町通	8	綾渡の夜念仏と盆踊	豊田市綾渡町
4	尾張津島天王祭の車楽舟 行事	津島市神明町 愛西市市江地区	9	鳥羽の火祭り	幡豆郡幡豆町
			10	犬山祭の車山行事	犬山市犬山
5	知立の山車文楽と からくり	知立市山町・本町 中新町・西町	11	亀崎潮干祭の山車行事	半田市亀崎町

県指定無形民俗文化財

No.	名 称	所 在 地	No.	名 称	所 在 地
1	滝山寺鬼祭	岡崎市滝町	22	足助の棒の手	豊田市五反田町・富岡町・ 井ノ口町・田振町
2	菟足神社の田祭り	宝飯郡小坂井町			
3	ばしょう踊	一宮市北方町	23	参 候 祭	北設楽郡設楽町
4	今市場の獅子芝居	江南市今市場	24	守山の棒の手	名古屋市守山区大森・川村
5	長久手の棒の手	愛知郡長久手町	25	千万町の神楽	岡崎市千万町町
6	小木田の棒の手	春日井市小木田町	26	桜井町の棒の手	安城市桜井町
7	安良の棒の手	江南市安良	27	乗 本 万 燈	新城市乗本
8	桜の棒の手	名古屋市南区元桜田町	28	信玄原の火おんどり	新城市竹広
9	銭 太 鼓	豊田市駒場町	29	えんちょこ獅子	高浜市青木町
10	西尾のてんてこ祭	西尾市熱池町	30	大脇の梯子獅子	豊明市栄町
11	豊田市松平の棒の手	豊田市石楠町	31	く つ わ 踊	津島市中野町
12	豊田市猿投の棒の手	豊田市猿投町	32	大獅子・小獅子の舞	半田市成岩本町
13	藤岡町の棒の手	豊田市藤岡飯野町	33	進雄神社の奉納綱火	豊川市豊川西町
14	豊田市拳母の棒の手	豊田市宮口町	34	須成祭(宵祭・朝祭・葎刈)	海部郡蟹江町
15	旭町の棒の手	豊田市大坪町	35	設楽のしかうち行事	新城市能登瀬・東栄町
16	尾張旭市の棒の手	尾張旭市新居ほか	36	知多の虫供養行事	常滑市・知多市・阿久比町・ 東浦町
17	田貫の棒の手	西尾市田貫町	37	尾張の虫送り行事	稲沢市祖父江町・常滑市
18	朝倉の梯子獅子	知多市新知	38	水法の芝馬祭	一宮市浅野
19	坪崎の火鑽神事	豊田市坪崎町	39	国府宮の難追祭	稲沢市国府宮町
20	田峯念仏踊	北設楽郡設楽町	40	岩作のオマント	愛知郡長久手町
21	南設楽のほうか	新城市大海・名号・一色・ 塩瀬・布里・愛郷字源氏	41	板山獅子舞	半田市板山町
			42	万 燈 祭	刈谷市銀座
			43	長湫の警固祭り	愛知郡長久手町